

第2回 旧新豎町小学校跡地整備基本構想検討懇話会 議事概要

【開催概要】

日時：令和7年8月19日（火） 15:30～17:10

場所：金沢市役所第二本庁舎 3階 2301 会議室

【意見交換発言要旨】

＜丸谷座長＞

まずは一人ずつ発言いただき、トピックを出して共有してからディスカッションに移りたい。片桐委員から順にお願いしたい。

＜片桐委員＞

コーディネート機能については、金沢市として大学や多様な団体とどういう関係性をつくっていききたいか、シーンが変わる大きな話だと思う。活動支援をするにしてもそれぞれの大学で考え方が違う。立地はすごくいい場所だが、常にこの場所でいろいろな活動が行われる環境をつくるとなると、本気で経営しないといけない。

＜山本委員＞

近くに学生のまち市民交流館があり、新たな施設も学生が主体となるようなものをつくると重複してしまうことが気になる。

私自身、大学関係者に聞ける範囲で聞いてみたところ、学生のまち市民交流館を学生が無料で使えるように、新たな施設も大学は無料で使えるような形になればという意見が一つ。また、起業やスタートアップ拠点、創作活動拠点、国際交流拠点といったものもあったらよいのではという意見があった。地域性も踏まえた検討が必要だが、「あればいい」よりも、より人が集うことを重要視するべきかと思う。

大学コンソーシアム石川には、県内の高等教育機関すべてに参加いただいているが、専門学校は参加していない。跡地の近くには専門学校もいくつかあり、そうした専門士を養成する機関も、同じく学びの機関であり、これらも含めてあり方を検討してほしい。

前回までの大学サテライト機能という言葉について、大学が専有し、スタッフなどが常駐しているイメージをしていたが、骨子案ではそうではないように見える。現状の市の考えはどうか確認したい。

＜橋委員＞

ハード面についても少し議論したい。容積率 300%の好立地だが、いろいろな人の意見を聞くと、300%いっぱい使うべきという人もいれば大きな建物は無駄だという人も

いる。仮に小さな建物にするのであれば、残った部分は売却して民間に委ねるということも考えられる。浸水想定区域であり、2階以上に防災機能を持たせるような形がいいと思うが、屋上にヘリポートなどが必要なのかなども検討すべきではないか。

ソフト面では、職業体験など産学交流が行われるようなイメージを持っていた。企業が使えるサテライトオフィスなども考えてよいのでは。

<仁志出委員>

骨子案は綺麗にまとめられていると思うが、一方でどういう人がどういう魅力で集まってくるのかというところがまだイメージできない。例えば子どもたちが集まるにしても、すごく自由な場になるのか、それとも文化的な活動をするのか、若者文化の何かをしているのかなど、今までのものと違うコンセプトが一つあればよいと思う。「誰でも来てください」では結局誰も来ない、となってしまうかねない。

また、前回の意見でもあったが、可能かどうかはわからないが、完成までのプロセスの中で小さく実験していくような形ができればよいと思う。

市民活動については、市民活動サポートセンターがこちらに移転するようなこともあっていいと思う。ただ、その場合は駐車場の確保が必要である。

細かいところだが、中高生に関して、今後、中学校部活動の地域移行が進むため、そのことと連動するのかどうか、ある程度見据えておいた方がよいかと思う。

<中田アドバイザー>

新しい施設をつくるにあたり、新しい機能をつくりたいことはわかるが、やはり対象者がまだ見えにくいこともあるので、既存施設のリニューアルという視点も必要だと思う。市民活動サポートセンターもそうだし、中央公民館彦三館にあるボランティア大学というのも素晴らしいと思う。そこでもコーディネーター機能が必要だという話も聞いており、市民活動サポートセンターのコーディネート機能を生かした形で考えると、より対象者も見えてくると思う。

また、大学の機能については、学生のまち市民交流館や未来のまち創造館との棲み分けが見えにくくなっている。学生の施設は基本的に学生のまち市民交流館がメインだと考えており、新たな施設ができた影響であちらが下火になるような状況にならないよう、棲み分けはしっかりすべきである。

<鶴見委員>

学生が来ていただくことで地域を活性化したいという思いは地元にもある。骨子案の中に公民館が入っていないが、今実際に幅広い世代をつなげているのは公民館である。学生が来ても地域とのつながりがあまりないような施設になると、地域の活性化にはつながらないのではないか。新堅会館が老朽化していることや、コミュニティの拠点

が分かれることは地域にとってマイナスであることも踏まえて、是非新たな施設に公民館を入れていただきたい。

< 甚田委員 >

地元として、148 年間この場所を守ってきた自負があり、先代に対しての責任も持っているため、地元の思いを無視して市の方針だから、というわけにはいかないと思っている。先ほど容積率いっぱいまでという意見もあったが、高さ制限も含め、これまでしっかり守ってきたまちづくりの根本は意識すべきであり、民間への売却ということも考えられないと思う。防災機能については、もともと小学校であったため拠点避難所になっており、その機能を残してほしいということであり、地元としてヘリポートなどまでは思っていない。

コーディネート機能に関して、未来のまち創造館についても公民館と一緒にイベントなどを開催している例もある。公民館とのコーディネートも考える必要がある。

民間活力に関しては、民間でどのくらいできるのか、非常に懸念している。京都のように定期借地で民間が観光施設を運営している事例があるが、市が観光政策の大きな方針を出した上でやっている。金沢市に関しては、他の小学校跡地が直営でやっている中で、地元への説明が難しいのではないかと感じる。

< 丸谷座長 >

各委員の意見として、大きく 4 つ。一つは、どのように経営していくのか、特にコーディネート機能をどのようにしていくか。二つ目が他の施設との棲み分け、それと同時にどう特色を出していくのか。三つ目がハードのイメージ。学生が中心になって多様な人がつながるための場所とはどういう場所か。この施設の中心になる場所はどういう場所かということ。四つ目は、全体の話だが、学生が集い、つながるための仕組み。

まず経営、特にコーディネート機能の部分と、棲み分け、特色についてどうか。

< 鶴見委員 >

コーディネート機能に関係して、地域とのつながりという視点を入れていただきたい。

< 甚田委員 >

地域の住民からすると、今まで小学校で使えなかった場所が開放され、キャッチボールや花見など気軽に使えるようになってほしい。コーディネートは地域住民ではなかなかできないため、第三者の方にやってもらうことも必要かと思う。

< 鶴見委員 >

学生やいろいろな人がきて、いろいろ使っていただき、交流が生まれるのはありがたいが、地域の人も気軽にに行けるような施設でないと、地域としては残念。

<仁志出委員>

地域の方が何を期待しているのかを踏まえることは大前提として、地域の人だけが使っていてもだめで、外の人だけが使ってもだめなので、どうミックスさせるかが重要だと思う。

その点、子どもに関しては比較的簡単で、ソフト面がしっかりしていれば、子どもの居場所となる場所には当然その地域の子どものも来る。大人の方をどうするかについては、例えば市民団体が100団体くらいこの施設を使ったとしても、地域と何かしたかという、過去に1回行事に参加した程度だった、ということになっても本当にいいのか、そのグラデーションをどうつけるかを定める必要がある。

公民館に関して、我々市民団体の立場で言えば、なにかイベントを地域と連携してやりたいとなったときに、地域の窓口として公民館があればすごくやりやすい。

<丸谷座長>

地域との関係において今の説明でとてもわかりやすくなった。地域とつながることがこの場所の特色につながるかもしれない。

事務局として他施設との棲み分けに関して方針はあるか。

<事務局>

学生のまち市民交流館は、学生が主役となって、市民との交流を深め、金沢の歴史や文化の理解を深める場というコンセプトがある。一方、今回整備する施設については、大学等の高等教育機関が主役になり、その知見を生かし、多様な人と混ざり合いながら地域の課題解決などを行っていく施設と考えている。

コーディネート機能については、この施設の肝になる部分だと考えている。多様な人が使う中で、どういうふうにつなげば面白いことが起きるか、地域課題の解決になるかということを、全体を俯瞰しながらコーディネートできることが非常に重要であり、人材の確保については引き続き検討していきたい。

先ほど質問のあった、大学のスタッフが常駐するかどうかについてだが、大学とヒアリングした中でも、人を配置してサテライトオフィスを置き続けるという形は負担が大きく、独占的に使いたいというよりも、いろいろな大学とシェアでき、その中でコーディネーターが必要だという意見があった。

<丸谷座長>

前回も意見にあったが、学生に常に来てもらう、まちなかにいてもらうというのは大

変なこと。市民講座やまちなかでの授業で来てもらうのとはまた別の話になる。学生をどう集め、どんなつながりを持つかというところで意見はあるか。

<片桐委員>

学生がいるから何かが生まれる、ということはあまりないと思っている。そこに何かプロジェクトが展開したり、人が入ってきたりするような状況が必要である。やはり誰かが活動をまわしていかないと難しい。そういう意味で、継続的にコーディネート、サポートができる人材の配置、体制が重要だと思う。

<中田アドバイザー>

学生を主体とするにもメリットデメリットがあり、誰かがマネジメントしないとうまく機能しないので、コーディネート機能はとても大事である。

市民活動のサポートをしていると、行政の限界というのも見えてくる。市民団体がどんどん成長していく中で、マネジメントする立場の人が変わってしまうとうまく機能しない。本当に精通したコーディネーターを民間が担うということも一つの選択肢で、そのような施設は金沢市にはまだないと思うし、面白い施設になると思う。

<丸谷座長>

下北沢に高校生から社会人まで住んでいる寮のようなものがあり、そこでみんな一緒に地域活動をしており、民間が運営している。前回も、そうした住むという視点も必要という意見があったが、どうか。

<片桐委員>

就活生も含めて大学生は忙しく、また郊外からの交通費（金沢工業大学からだと往復720円）は負担になる。学生の就職やプライベートな時間の使い方に対する考え方も変わってきている中で、地域貢献活動という建て付けに対して、継続的、主体的に参加してくれる学生はそれほど多くないと思うので、関わることへのメリットを提供できる場にしないといけない。

<橘委員>

学生に来てもらうのはいいが、卒業して就職するときに他地域に移るともったいない。産学交流として、例えば新堅町商店街のお店や、市内の特徴的な企業などの体験ができれば、金沢でお店を出したり就職したり、地元定着につながると思う。

<仁志出委員>

民間活力について、施設をしっかりと管理するのではれば公設公営がよいと思うが、一

方で、地域の方の愛着という点では、民営の方が長く同じ人がやっていただけるので強みがある。今回どちらがよいかは検討が必要だが、交流というのが一つのキーワードとしてあるならば、部分的にコーディネート機能を民営で行うということも賛成である。

寮の話が出たが、金沢には高校生にとって魅力的な寮がないという話を聞く。全国的に寮が重要な学びの場になっている。寮の設置には地域の方の意見を聞く必要があると思うが、寮長がコーディネート機能を担っている事例などもあり、そういう可能性もあるかもしれないと感じた。

<丸谷座長>

経営手法としてどのような選択肢があるのか。

<事務局>

民間活力の導入については様々なパターンがある。整備、資金調達から運営まですべて民間に任せるものから、未来のまち創造館のように、公設だが核となる事業をプロポーザルで民間に提案させ、委託するようなものもある。

この点については、昨年度策定したガイドラインに基づき、来年度以降、基本計画と並行して検討することになる。

<甚田委員>

商店街と大学、学生の連携というのは大きなインパクトになると思う。前橋市にある私学でも、空き店舗で、学生が経営補佐するような事業を行っており、大変よいと感じた。

寮に関して、金沢大学がまちなかにあった時代は下宿がたくさんあった。それがだんだんと空き家化しているという状況がある。寮というのも一つキーワードになるかもしれない。

また、周辺に調理師専門学校もあり、そうしたところとも交流ができれば、商店街といろいろな連携ができると思うし、そこから定住につながるということもあると思う。そこに公民館が入ることによって、コラボした事業ができるし、地域の人たちの学びにもつながる。

<丸谷座長>

ハードについての検討は基本構想でどこまで行うのか。

<事務局>

具体的な施設の配置は、基本構想を踏まえて来年度以降策定することになる。基本構想では、示すとしても大まかなゾーニングくらいまでかと考えている。

<丸谷座長>

今までの議論を踏まえて、大まかにこういう場所が必要という意見があれば。

<鶴見委員>

地域行事ができるオープンなスペースが必要。地域の人だけが使えるというのではなく、他地域の方や学生と一緒に交わり、共有できる場所であれば、コミュニティが深まると思う。

<丸谷座長>

多様な人が使うのであれば、市民、学生、子ども、あるいは働いている人など、それぞれ生活スタイルが違うので、時間軸をもって考える必要がある。例えばグラウンドなら平日は子どもが、土日にはイベントや地域行事で。大学が使う部分に関しても、頻度はそれほど多くなく、またある時期に集中してしまう可能性もあり、いろいろな使い方ができるよう、ある程度幅を持たせた空間デザインをしていくことが必要である。

<山本委員>

オンラインで講義をやると学生があまり来なくなるため、人と触れあうよさを伝えていく仕掛けが必要になる。例として挙げると、高砂大学は非常に熱心に参加されているとお聞きしている。

また、長い目で見ると学生は常に変化しており、卒業などにより大部分は入れ替わる。雪かきボランティアのように、サークルや部活動など組織として連携すると長い間関わりが続くと思う。

ハードに関しては、地域と密着した形で管理してうまくまわすことができればよい。例えば地域交流など、施設の目的に合致すればある程度緩やかな基準で使うことができるような、施設を遊ばせないような観点で検討してほしい。

<片桐委員>

廃校跡地の利用だが建物自体は残らないという点で、一般的な廃校利用のプロジェクトは異なり空間的に1から考える必要があるという点で、難しさを感じる。地域の方の望む姿、利用イメージが共有できていないのではないかと思いますので、ワークショップなどを開けるとよいと思う。「小学校」や「公民館」の機能として、具体的に求められているものは何か、空間からではなく、これまでにそれぞれが担っていたものを踏まえて、整理する必要がある。

産学の連携ができる場所となることは、有効だと思う。商店街や金沢の企業との共同研究や共同プロジェクトを展開できれば、学生のメリットにもつながると思う。

<丸谷座長>

空間をつくる方針として、地域の人が使え場所、学生が使う場所、市民団体が使う場所を整理しつつ、それらが重なる場所をいかにつくっていけるかが大事である。

骨子案のコンセプトと役割について、修正すべき点などないか。

<中田アドバイザー>

役割の「学生を中心に」という部分については「地域を中心に」なのかなと思う。学生が数年で変わっていくのに対し、市民団体、NPO など地域に根づく団体もたくさんあり、持続可能性を考えると、市民団体や地域がコアになるのではないかなと思う。

<甚田委員>

学生にたくさん利用してもらえば地域も活性化されると思い、大学の機能を、という要望を出したが、あくまで地域が主体であり、コンセプトや役割に地域という言葉を入れていただきたい。

<鶴見委員>

少年連盟や町会連合会など地域の各団体とのつながりの拠点が公民館であり、多様な人や団体が地域とつながる時にはまず公民館との連携が必要になる。

<山本委員>

漠然とした表現になるかもしれないが、先ほどから出ているボランティア大学や公民館を含めて、社会教育の拠点というような表現でもよいかもしれない。

※複数の委員から施設の基本的な考え方・コンセプトの表現についての意見多数

- ・「学生と地域がつながる拠点」
- ・「地域を中心に、学ぶ人が集う拠点」
- ・「地域交流拠点」 など

<丸谷座長>

コンセプトや役割は、今日の意見を踏まえて事務局で改めて整理し、修正して次の会議で見せていきたい。

以上